岐阜県土地家屋調査士会　第2回定例研修会　平成28年9月14日

講演題目「境界画定の理論と実務―地籍制度における登記面積誤差の由来について―」

序論「日本の土地制度を相対化する」

1．土地は誰のものだったか？

　1）鉄道・道路・宅地開発と語られぬ苦労

　2）班田収授から太閤検地まで

　3）江戸時代の地籍測量術

2．土地所有制度と社会の格差

　1）国の形を決める税制と土地制度

　2）地方自治の本質と土地制度

本論「地籍制度形成の歴史」

1．悪役としての「地租改正」

　1）税制改革と土地改革

　2）苛斂誅求イメージの定着

2．誰が「縄伸び」を作り、黙認したか？

　1）悪代官と可哀想な百姓像

　2）税源の変化と制度改正

3．誰が境界の画定を妨げるのか？

　1）土地区画整理の隠れた意義

　2）公法の世界と私法の世界

まとめ「境界画定の未来」

1．資源としての土地

　1）穢してはならない自然

　2）海幸山幸の国

2．水循環基本法の意義

　1）二項対立では解けない問題

　2）エネルギーそして水

3．子孫のために美田を残す

　1）官から民へ

　2）民主主義としての地方自治と民間活力